



魔法のワンドプロジェクト

“みんなと違う学びをする私は
みんなからはどう見えるのかなあ…”

～視覚障がいのある子どもの自己理解と
周囲との関係を考える～



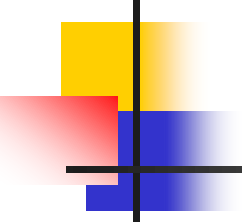
松江市立古志原小学校
吉野晃子



本日の内容

- 1 Aさんの様子と困難 (R)
- 2 取組の概要 (P)
- 3 取組の実際 (D)
- 4 成果と課題 (CA)

**自分自身をどうとらえているのか
周りからどうとらえられているのか
将来のことを考え、今すべきことは何か**



本日の内容


アプリをこのように使っています

ではなく

子どもが iPadを持って みんなの中に入
って使っていく ということ自体を
考えていく実践です

1 Aさんの様子と困難

(R：リサーチ)

Decorative white lines consisting of several parallel diagonal strokes in the bottom right corner of the slide.



Aさんです

弱視

左右0.07

中心部の欠損

周辺視

知的な遅れはない

歌や体育、算数が好き

恥ずかしがりや

将来は看護師になりたい



昨年までは...

交流学級との学習は算数しか行きたがらない
→「だってほかの勉強はいやだ」

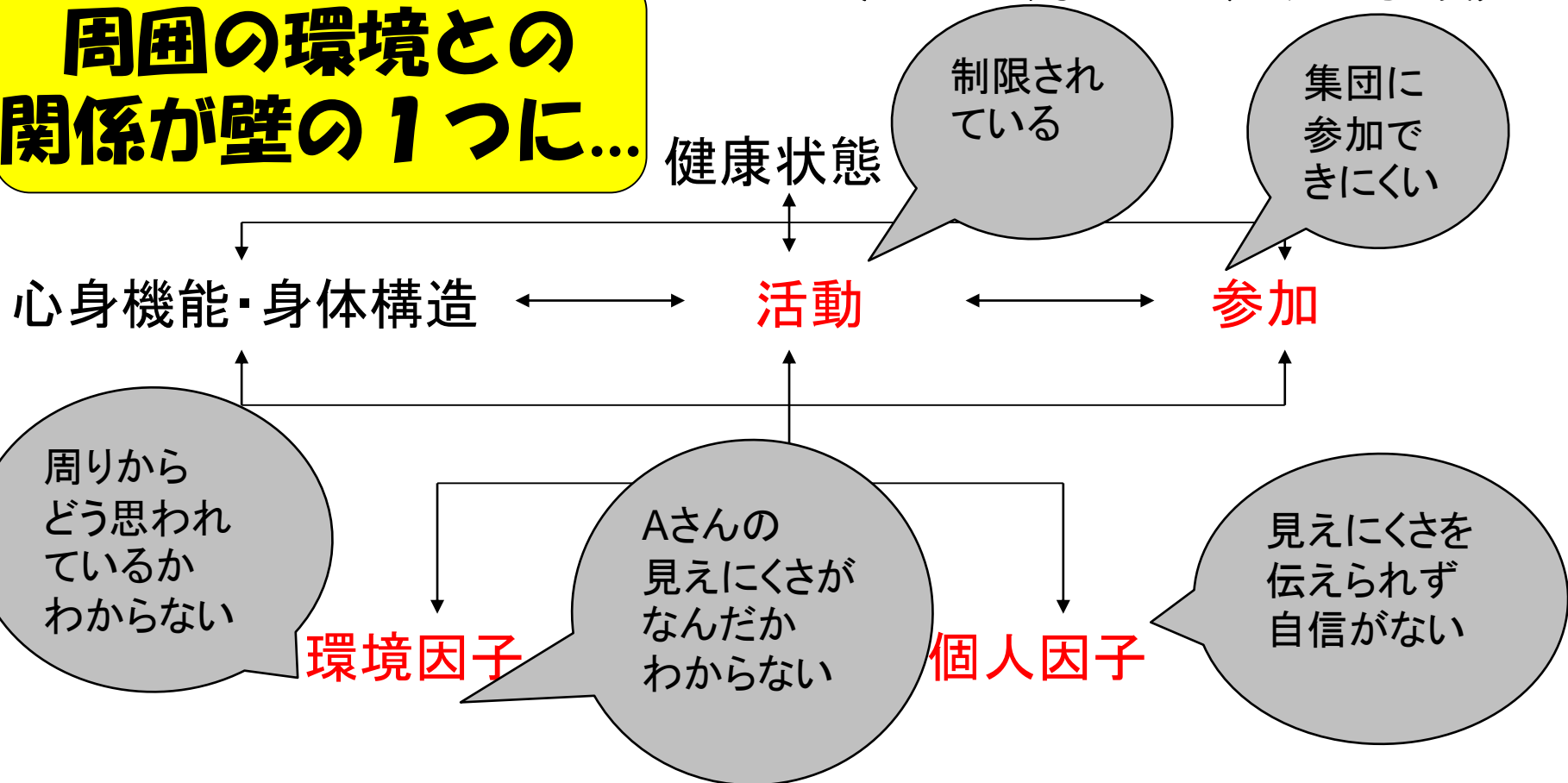
交流学級では喋らない
→「恥ずかしい」

視覚補助機器は自分からは使いにくい
→「だって.....」

Aさんの困難は何か

(ICF国際生活機能分類)

周囲の環境との
関係が壁の1つに...



2 取組の概要

(P : プラン)





まず考えたこと

「このプロジェクトが終わっても

Aさんの“ワンド” は

残るようにしていかないといけない」



取組の目的

「見る」 ために、 **みんなの中で**
自分から 視覚補助機器を使うこと

「見る」ために、みんなの中で 自分から視覚補助機器を使うこと

1 視覚補助機器を使う→「学習について」

- ① 交流学級での学習時に、iPadを机にホルダーで取り付けて『カメラ』機能で撮影したり、拡大機能のあるアプリを使いながら学習する
- ② 習ったローマ字を使い、自分でアプリをダウンロードするプロセスをたどってみる

「見る」ために、みんなの中で 自分から視覚補助機器を使うこと

2 みんなの中で→「周囲からの理解について」

- 1) **交流学級**…日常の授業・2回のアンケート
- 2) **同学年** …iPadを活用した学習
- 3) **4年生** …理解学習の授業
- 4) **全校** …校内音楽会で理解啓発を兼ねた発表

「見る」ために、みんなの中で 自分から視覚補助機器を使うこと

3 自分から→「Aさんの自己理解について」

- 1) iPadと単眼鏡での作業所用時間を測定し
それぞれの機器の特徴を考える
- 2) SCT（文章完成法）や、SimpleMindアプリに
自分の思いを表現していく
- 3) 視覚補助機器を使用しているAさんを
取り巻く周囲の状況や表情を、もう一台の
iPadで写してAさんに見せていく
- 4) 交流学級や校内からの手紙を読み、返事を書く

3 取組の実際

(D : ドウ)





1 「学習について」

3年生になったことで...

単眼鏡だけでは理科や社会の学習が
難しいだろう

→ “交流学級に拡大読書器と
iPadを持ち込もう！”

クラス替えで友達が変わる

→ “リセットのチャンスにしよう！”

新しい環境となることを活かし、関係を再構築

交流学級で

1 「学習について」

拡大読書器を使う



理科の授業で小さな種を大きく映して全員で観察

1「学習について」

単眼鏡を使う



交流学級で

どう見えるのかみんなに見てもらおう

1 「学習について」

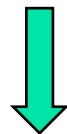
iPadを習う

〈夏休みのICT教室〉

アクセシビリティの設定

視覚サポートアプリの紹介

隣県の盲学校の先生からレクチャーを受ける



この教室で教えてもらったアプリや
担任が調べてきたアプリをA児に知らせ
A児がローマ字でアプリ名を入力する
パスワード等は担任が入れる



次は
何入れる？

1 「学習について」

iPadを使う



ローマ字
覚えたもん

「明るく大きく」と入力中

学級で

交流学級で



ちゃんと
映ってる？

えっと
角度はこの
くらいで..

自分の入れたアプリで算数の授業を受ける

2 「周囲からの理解について」

1) 交流学級...日常の授業

算数・理科・社会・体育・音楽を一緒に学習

この集団からの理解・所属への安定が何より大切

その
ために

- 報告者がAさんと他の児童とをつなぐ橋渡しになることが必要
- Aさんに張り付かずに他の児童にも多く声をかけるように

+

- Aさんや視覚補助機器が主役になる機会を作るように

2 「周囲からの理解について」

みんなはAさんのおかげで
すごくいい勉強ができるよね



交流学級担任が拡大読書器を使って授業を行う

2 「周囲からの理解について」

1) 交流学級で...2回のアンケート

- 3年生1組 26人に対して
- 6月 と 1月 の定点調査
変化を追っていきたい

2 「周囲からの理解について」

- ① あなたはアイパッドやスマートフォンを持(も)っていますか？
 - 持っている 持っていない 家そくが持っている 家そくも持っていない
- ② アイパッドやスマートフォンをさわったり動かしたりしたことがありますか？
 - ある ない
- ③ あなたのとくいな勉強やにがてな勉強に○をつけましょう（1つでなくてよいです）
 - とくい国語 算数 社会 理科 体育 音楽 図工
 - にがて国語 算数 社会 理科 体育 音楽 図工
- ④ Aさんはどうしてそよかせ学級にいると思いますか？
- ⑤ Aさんが勉強の時にくふうしていることを何か知(し)っていますか？
 - 知っている 知らない
 - 知っていることがあったら書きましょう
- ⑥ Aさんがアイパッドを使(つか)っていることをどう思いますか？
 - いろいろな物を使いながらがんばっていると思う
 - とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない わからない
 - 一人だけそんなものを使うからうらやましいと思う
- とてもそう思う 少しそう思う あまりそう思わない わからない
- ⑦ 授業中(じゅぎょうちゅう)に、アイパッドやかく大する機械(きかい)をみんなで使うとどんないいことがありますか？
- ⑧ わたしも(ぼくも)、勉強中にアイパッドを使ってみたいですか？
 - 使ってみたい 使ってみたくない わからない
- ⑨ Aさんへのメッセージや自分の将来の夢などを書きましょう

2 「周囲からの理解について」

2) 同学年...iPadを利用した学習

多くの学年単位の行事を共に行う大事な集団
交流学級での理解を学年全体にも広げることが
必要

その
ために

校外学習や校内音楽会の学年練習の時に
AさんがiPadで画像を撮り
それをクラスや学年での振り返り学習に使う

2 「周囲からの理解について」

どこを
撮ろうかな



撮影をするAさん

こっちも
見てごらん



Aさんをサポートしてくれる子どもたち

3年全員での社会科校外学習
「松江めぐり」でビデオ撮影

2 「周囲からの理解について」

Aさんの撮った画像



うわ、見えた
キューピー山



注目！



話を聞いただけだった映像が
実際に見えた！

2 「周囲からの理解について」

松江めぐり 振り返り学習



画像を再生するAさん



Aさんの画像で説明をする
交流学級の担任



画像を見る交流学級の児童

2 「周囲からの理解について」

音楽会の練習風景を動画で撮ってみんなで振り返る



練習風景をAさんが撮影



3年生全員に拡大読書器で上映する



「こうやって見るとよくわかるね」

→「**AさんがiPadを使っている**」

ことを実感

→「**自分たちの発表が前から見える**」

iPadとAさんへの関心の深まり

2 「周囲からの理解について」

(3) 4年生...理解学習の授業

同じ発達段階の中学年として、縦割り活動や全校行事を通しての理解が深まってほしい

その
ために

総合的な学習「やさしさをひろげよう」で
報告者が4年生100人に1時間の授業

2 「周囲からの理解について」



Aさんの見え方って？

- Aさんの使っている拡大教科書や単眼鏡・iPad・拡大読書器 を全員に見せたり触ったりしてもらおう
- 自分との違い、かつ自分と同じ部分を感じてほしい



右目を近づけて字を読んでいます

ポスターに
授業のスライドを
ファイル展示して
います



2 「周囲からの理解について」

今までAさんのことや、なかよしグループのことをあまり気にしたことがなかった。でも、今日教えてもらって、初めていろいろなことを知った。

拡大教科書は見た目は同じだけど、中身は普通より文字が大きかった。アイパッドは黒板に書いてある字をカメラモードで写し、それを大きくして使っていた。

Aさんとは一緒の掃除場所だったことがあったけど、普通に見えるかと思っていた。

自分と同じ人が当たり前じゃないんだと思った。今日は人のためだけでなく、自分のためにもなった。もっと頑張りたいです。

2 「周囲からの理解について」

(4) 全校...校内音楽会で理解啓発を兼ねた発表

全校児童や教職員・保護者や地域の方に一斉に見て知ってもらえる格好の機会

その
ために

♪ **ありのままで** 

校内特別支援学級11人が「僕たちはありのままで！
でも、これからも大きくなるぞ！」と全校に伝える
劇 & 体操 & 演奏発表

2 「周囲からの理解について」

☆ 台本を作るうえで考えたこと

○全校に向けた格好の発表の機会

→児童も保護者も地域も一斉に見てもらえる

○普段の特別支援学級の学習生活の様子を披露

→いつもの様子を劇化、PCのスライドも同時に披露

○今一番旬な音楽を練習し、発表する

→「すごい！」と思ってもらいたい

○校長先生も必ず登場

→支援学級のよき理解者であってほしい

2 「周囲からの理解について」

Aさんの台詞や動き

- ① ～みんなで遊んでいる場面で～

「もう、そんなに遠くにブロック置いたら私見えんわ」

自分のできにくいことを全校に伝える

- ② ～♪ありのままで♪の間奏部で～

「私は、iPadや単眼鏡を使ってしっかり見ます」

みんなとは違う学びの手段を全校に伝える

- ③ ～♪ありのままで♪の演奏で～

前奏部をソロで演奏する

Aさんの特技を全校に伝える

iPadや単眼鏡で
しっかり見ます！



取組の実際

特別支援学級の発表「ありのままで」

概要：

支援学級の子どもたち11人は休憩時間で教室に集まる。Aさんはオルガンで「ありのままで」を弾いている。それを聴きながら子どもたちはいつものように遊び出すがトラブルになる。そこで「ありのままってどういう意味かな」と考える。

「僕たちはそのままだと喧嘩になっちゃう」とわかった子どもたちは「協力」を合言葉にしながらいつもの体操を一層頑張る。

校長先生も一緒になって行進や組体操を成功させた子どもたちは「ありのままで」の曲の演奏を始める。

途中の間奏で一人一人が今後の自分の決意を大きな声で宣言し、「これでいいの～自分を好きになって～」という曲のサビを大合唱する。

(1) 単眼鏡とiPadの作業所要時間の測定

3 「Aさんの自己理解について」

単眼鏡... 3分3秒



iPad手元で... 2分47秒



5cm四方の37文字を
3m離れて視写する



iPadホルダーで... 2分5秒

単眼鏡だといちいち覚えなといけないけど、
iPadだと写ってるから覚えなくていい
ホルダーの方が手が使えて書きやすい







でも、iPadが使え
ない時もある
ルーペだって速く
読めるよ



(1) 単眼鏡とiPadの作業所要時間の測定

3 「Aさんの自己理解について」

それぞれの視覚補助機器の特徴を考える

	いいところ	どんな時に使うといいか
単眼鏡 	持っていくのがやりやすい	「第2の目だからいつも使えるようにしとかんといけんよ」って盲学校の先生が言ってた
ルーペ 	字にあてるだけだから簡単 	本とかを机に置いて読む時
iPad 	ホルダーについたら見ながら書けるし、みんなも一緒にのぞいて教えてくれる	黒板を写す時や学校から帰る時 広いところを見る時

(2) SCTやSimpleMindアプリに自分の気持ちを書く

3 「Aさんの自己理解について」

SCT (文章完成法)

17 「私がおぼつかしいと思うことは」

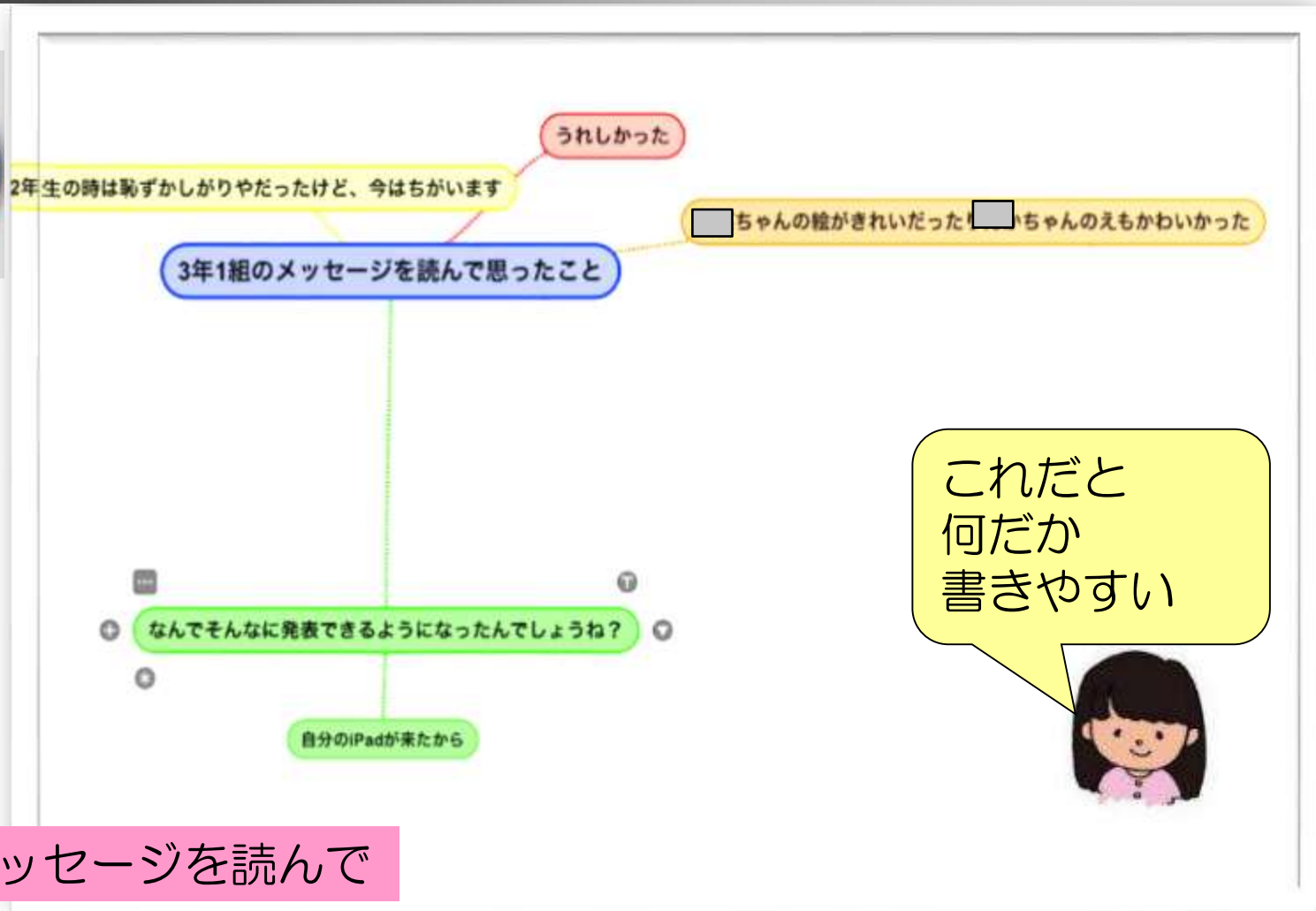
いっぱいあります
(2年 12月)

ふつう
(3年 5月)

ありません
(3年 7月)

(2) SCTやSimpleMindアプリに自分の気持ちを書く

3 「Aさんの自己理解について」



交流学級のメッセージを読んで

(3) 周囲の状況をもう一台のiPadで映して見せる

3 「Aさんの自己理解について」

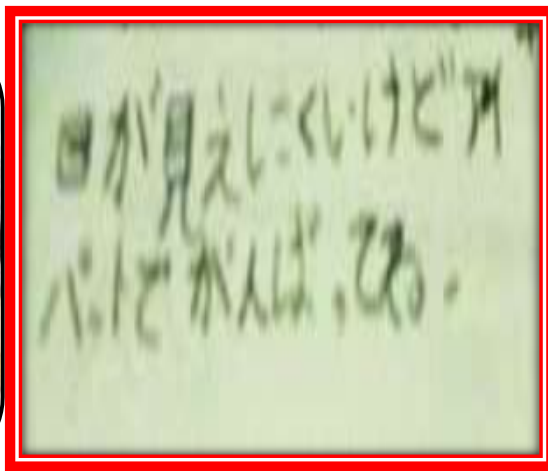
みんなはどんなふうに勉強してるの？
どんなふうに私を見てるの？



教室の様子を見せると
「ふーん」「そうなんだ」
…安心？

(4) 交流学級や4年生、校内からの手紙を読み、返事を書く

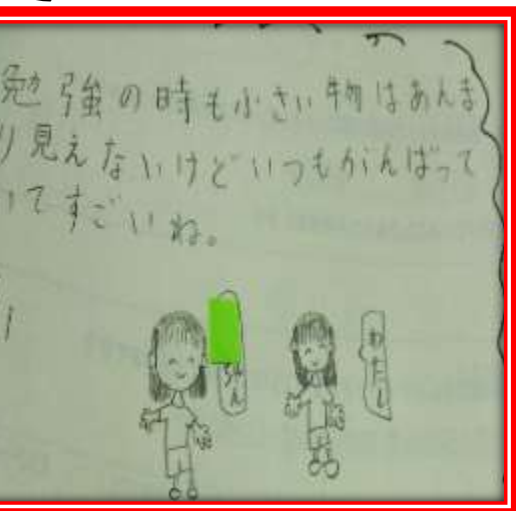
3 「Aさんの自己理解について」



四年生のみなさん、お手紙ありがとうございます

……

わたしはアイパッドやた
んがんきようがあるよ
く見えます…



4 成果と課題

(CA：チェック・アクション)



Aさんの困難と取組の目的

自分が人と違うことが気になるAさん
周りが自分をどう見ているかわからない



周囲の環境との関係が壁の1つになり、活動が制限されているのではないか

その
ために

「見る」ために、みんなの中で
自分から視覚補助機器を使うこと

Aさんの変容

「見る」 ために、 **みんなの中で**
自分から 視覚補助機器を使うこと

みんなの中で →OK

自分から →OK

視覚補助機器を使う →OK

このこと
により

「活動への制限」がなくなった

Aさんや周囲の大人の言葉から

変容を裏付けるエビデンス

交流学級との学習は算数しか行きたがらない

「うちね、全部行ってもいいよ」

交流学級では喋らない

「去年発表しなかった？信じられない」
(現交流学級の担任)

補助機器を使いたがらない

「忘れんように持って行かんと」

Aさんや周囲の大人の言葉から

変容を裏付けるエビデンス

「見えない」ことによる気持ちの歪み

「歪みがなくなりましたね」

(幼児期からの盲学校巡回教員)

友達が少ない

昨年度は遠足で支援学級の同級生と
お弁当を食べた

今年度は交流学級の女子6人と一緒に...

変容を裏付けるエビデンス

Aさんはどうしてそよかぜ学級にいますか

1回目(6月)

→ 目が悪いから 等... 70%
わからない ... 30%

2回目(1月)

視力が低いから 目が悪くてもいっ
ぱい勉強するため 等 ... 100%
わからない ... 0%

Aさんが勉強のときに工夫していることを何か知っていますか

1回目(6月)

→ 知っている ... 60%
知らない ... 40%

2回目(1月)

知っている ... 73%
知らない ... 27%

変容を裏付けるエビデンス

AさんがiPadを使っていることをどう思いますか

1回目(6月)

とてもがんばっていると思う
...96%
うらやましいとはあまり思わ
ない ... 64%

2回目(1月)

とてもがんばっていると思う
...96%
うらやましいとはあまり思わ
ない ...85%

自由なメッセージ

アイパッドを上手に使って勉強して
いてすごいですね。ぼくもアイパッ
ドを使ってみたいです。Aさんはい
つもくふうをしているのですごいな
あといつもそんけいしています。

わたしはしょうらい幼稚園の先生
になりたいです。みんなで勉強が
んばろうね。

分からないことがあったら聞いてく
ださい。

ポスターにアンケートの
様式等を展示しています

交流学級のアンケートから

変容を裏付けるエビデンス

授業中に、アイパッドや拡大する機械をみんな
使くと、どんないいことがありますか

勉強して忘れたときに
思い出せる

字が大きく見えて勉強が
しやすい

遠くの人もよく見える

みんなが見やすくなる
からいい

Aさんといっしょに勉強
できるからいい

変容を裏付けるエビデンス

「こんなに大きくせんと見えんの？」

「Aちゃんいいなーあたしも使いたい」

「俺ら得だよなこれ使えて」

「Aちゃん今ここやっ取るよ」

Aさんに関わるいろいろな声が聞こえるようになりました

Aさんの行動から

変容を裏付けるエビデンス

3の1との学習

アイディアやヒントも
使うとよく見えた。
友だちも2年生の
時よりよくなりました。

1学期の感想を書く

なんかねー、もう恥ずかしく
なくなったもん



うちねー、算数とかむっちゃ
得意だよ

いろんなことがよくできる
ようになったって思うわ

取組を通してー成果 (Aさん)



自分が肯定されていることが実感でき、
何事にもチャレンジするようになった
その上で、自分の目のことや苦手なことを
口にできるようになってきた

ずっと同じことしてると疲れるわ

それはめんどくさいってこと？
それとも目や手が疲れてくる感じ？

私は目をずっと使うと疲れるし
こういうことが下手だもん
だから目が悪いの嫌だわ

そうか、それはしんどそうだね

自分のことを外に出す = 話す → 離す → 調整 → 共感へ 進歩では！

取組を通して一成果 (周囲の子ども)



Aさんの視覚補助機器をセットしたり
拡大教科書の頁を教えてくれたりする姿が
日常的になってきた
もう一台のiPadを学習に使うことを検討する
事例も出てきた

他学年の児童がAさんの目のことを
否定的に口にしたのを聞き...

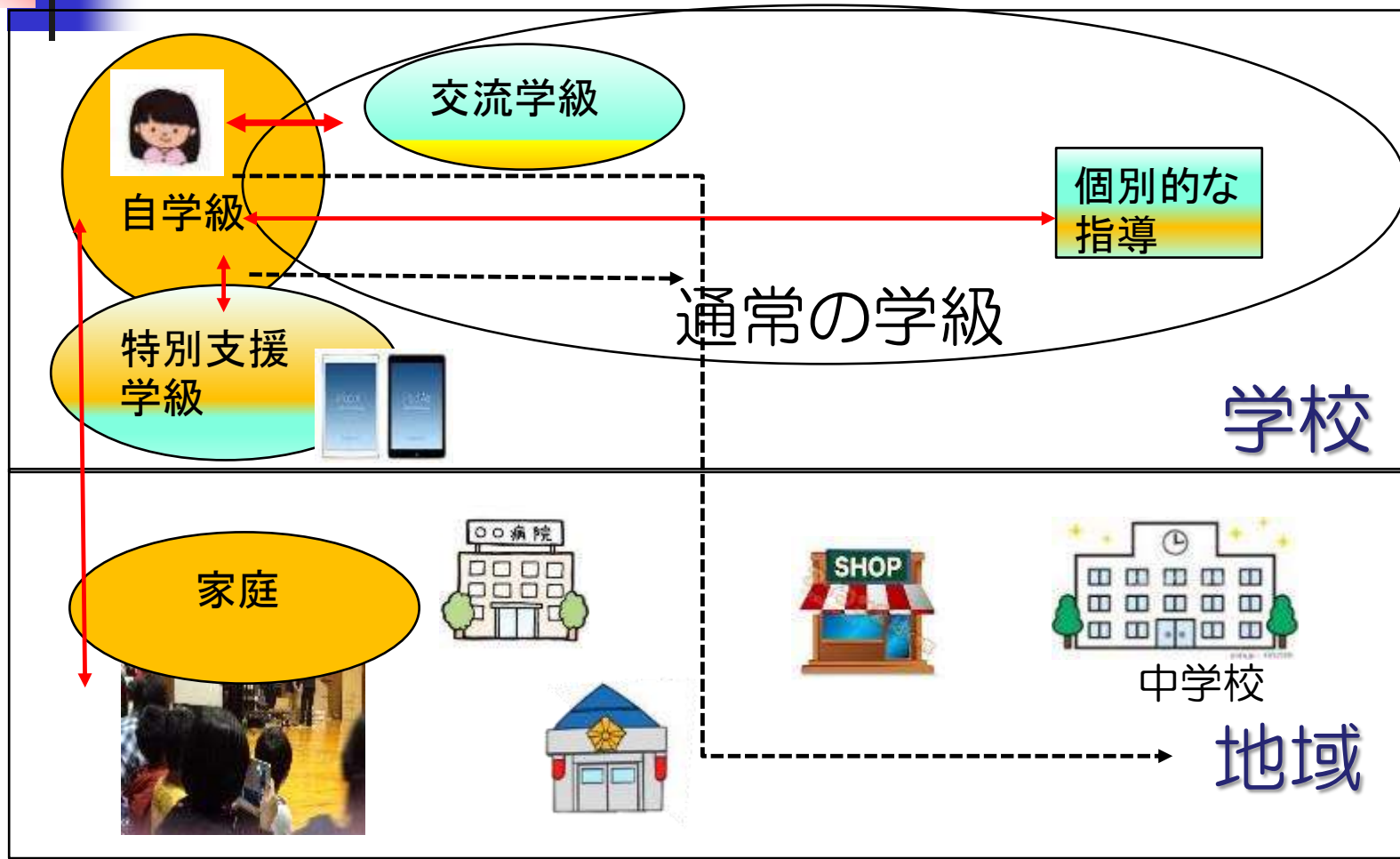
Aは悪くないわ、お前あやまれや
(交流学級の男児)

AさんだけiPadを使っていてずるい
と言った年下の児童に対して...

これはAさんの目の代わり
だからね

(Aさんの姉の友達)

取組を通して—ICTの拡がり



赤↓導入済

黒↓今後

取組を通してー主題について

みんなと違う学び方をする私は
みんなからどう見えるのかなあ...
～視覚障がいのある子どもの自己理解と周囲との
関係を考える～

機器への興味（違い）→相手への関心（違い）→頑張っている
ことへの共感(同じ)→自分への気づき（共に・多様に）

現在地

**まずは人間関係の構築 それによる所属と情緒の安定が土台
それがあってこそ多様な学びを積むことができる**

支援

取組を通してー未来予想図

今後の課題

担任や教員がいないところでもAさんが安心して活動に参加できるように、このような多様な学び方を通常の学級にも広げていくと共に、互いの相互理解を図る教育活動を展開する

中学校 思春期に入る... 教科担当制になる...
スピードも上がる... 副読本なども増える...

- ・それぞれの機器の選択を速やかにできるように
- ・必要に応じて教科書などをスキャンして取り込めるように

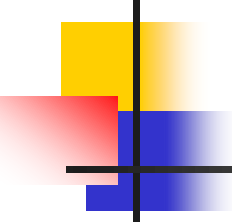
高校・その先 一人暮らしができるようになってほしい...

そのためにはWHOのライフスキルを常に意識していきたい...

- ・自分のことを一緒に考え、援助依頼ができる友人ができるように
- ・将来への夢が描けるように

看護師になりたいな





自分のことを誰かと一緒に 考えながら生きていく

発達段階に即しながら
自分のことを考え
みんなの中で
自己理解・他者理解を相互に繰り返し
生きるために必要な「ワンド」を
自分のモノとして
使えるようになってほしい

ありがとうございました